

大腸内視鏡検査による大腸癌発生率と死亡率の低下について

- 大腸内視鏡検査を受けた人と受けなかった人のその後の大腸がん発生率と死亡率を比較検討した研究が New England Journal of Medicine 誌に報告されました。



- 22年にわたり 88,902 例を追跡した結果、**大腸癌発生の危険率**は、**大腸内視鏡**によるポリープ切除後では 0.57 倍、ポリープがなかった人では 0.44 倍でありました。



- **大腸癌死亡の危険率**は 0.32 倍でありました。

大腸内視鏡検査は、大腸がんの予防に大変有効であることが証明されています。

